

原稿ができるまで

「熊本の中野さんから電話がありました」という伝言を見つけ、なんだろう？ と考えながらとりあえず電話をしてみました。

「やあ、久しぶり。どうね、調子は...」と、まずはお互いありきたりの挨拶を交わし、その後お互いの仕事や情報交換の話へと話題は移り、それも出つくした頃、「リレートークって知ってる？」と、彼がその話を切り出してきました。その後は今みなさまがこのリレートークを読んでいる、という経過と

なっております。

中野貴之さんとは学生時代同じ科で、卒研部屋も隣でした。私とは違いまじめな人で、彼が卒業研究に励んでいるのを見るたび、「ああ、自分も頑張らねば」という思いをめぐらしていたものです。卒業してから一度も会っていませんが、現在（かなり）たまたま電話で話をしています。

中野さんからこの話があったのは、8月ぐらいだ

秀句つれづれぐさ

本宮 鼎三

門の「一」の字開き恵方みち

平井 さち子

句集『平井さち子（花神・現代俳句集）』所収、昭六二作。この句の季語は「恵方」。昔からのしきたりで、新年、家に迎えて祀る神を「歳徳神」といい、その神の来る道が「恵方」の「道」。その方角にある寺社へ初詣するとよいといわれている。この句は門を角材で横一文字にとざしている門。こういふ門のある家は、文化的な家だ。それを開いて初詣にこれから行くという、みずから己の運勢を開こうとする気力が感ぜられる句。この作家は故中村草田男門。句集『鷹日和』で俳人協会賞受賞（平二）。「萬緑」同人会長。

泊船のきのふのままに年新た

渡邊 千枝子

句集『残響』所収（平十刊）、一目瞭然、この句は元日の港風景の作とわかる。この作家の住居は横浜であるので、横浜港の埠頭を詠んだものと見ても間違いではないと思う。「年新た」は新年。元日に限らず松の内ぐらいいい場合もあるが、この句は元日でない。「きのふ（昨日）」が生きない。「きのふ（歴史的かなづかい）」までは師走。元日の港は静寂。豪華な客船も悠然と岸壁に横づけされている。悠悠自適、そついつ心境を踏まえての作であろう。この作家は故水原秋櫻子門、「馬酔木」賞受賞、同誌編集長など歴任。

お知らせ
秀句つれづれぐさをこ執筆いただいていた本宮鼎三氏におかれましては、平成十一年十二月三日にご逝去されました。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。なお秀句つれづれぐさは今回をもちまして終了とさせていただきます。

ったと思います。担当の方からFAXで詳しい内容の資料を送っていただき、その中で期限が10月いっぱいという部分を見て、まだかなり余裕があるからそのうち何かネタも考えつくだろう、とそのときは考えていました。

9月、仕事の合間にふと「あー、そういえばリレートーク頼まれていたんだっけ」と思い出し、そのときは何を書こうか考えるのですが、締め切りまでまだ余裕があることを考えると、また後で考えようという気になり常に後ろのほうに回しておりました。9月の間こういう繰り返してでした。

10月、「あー、リレートーク頼まれていたんだっけ。また例のごとく、ふと頭に浮かんできました。少しずつ書いていかないと後で苦労するな、と思いながらもなかなかいいネタが浮かびません。

そしてついに今(土曜日)書いているところです。締め切り1週間前です。どうも私は期限が近づかないと動かない性格で、これに限ったことではなく、この話を引き受けたときから、こうなることはわかっていました。しかもそのとおりになってしまう

した。今日は朝から何を書こうかずっと考えてきました。子どもの話にしようか、沖縄の話にしようか。やっと決まりました(17:00)。原稿を書くまでの経過を書こうと。

あと数行になってしまいました。ふと自分の文章を読み直してみるとなんと内容のないことか。

一見意味のないように思われていることが実は深い意味がある、ということも現実にあるかと思えます。ひょっとしたら今後リレートークを書かれる方にとって、こういう原稿が載っていることを見ると気持ちが楽になるのではないのでしょうか。

それでは次の方を紹介します。現在高度ポリテクセンターにいます尾添史朗さんです。

彼とは高知にいる頃に一緒に飲んだり、テニスをしたりしていました。私の後輩になるのですが、彼を見るといつも落ち着いており、私のほうが後輩のように感じます。中野さんと同じで非常にまじめな人です。

それでは尾添さん、よろしくお願いいたします。

リレートーク【2】

京都雇用促進センター 白川 幸太郎

先端機器にも弱点が...

アピリティガーデンネットの司会進行を担当していただいているアナウンサーの涌井えり子さん、いつも歯切れのよいてきぱきとした番組さばきをありがとうございます。9ヵ月間のおつきあいでしたが、今までの事業団業務にない教育訓練の通信衛星番組作成という画期的な仕事を一緒にさせていただき、ありがとうございました。今回は、そのAGネットが配信されるに至った経緯などをご紹介いたします。

生涯能力開発センター建設の準備作業が始まったのは、平成5年8月でした。私が開設準備室に異動にな

ったのは、翌年4月。準備室は、麴町の本部から少し離れたところにある小さなビルの3階。人員は準備室長以下5名。こんな少人数で何ができるのであろうか、と心配することしきりでした。

遠隔通信訓練の構想は、かなり以前からあった模様で、平成6年の3月には、職業能力開発大学校で有線による大型プロジェクタ使用の実験が行われ、セミナーを実施したときの文字の見え方(解像度)や教室での受講生の視野などが検討されていた模様です。

平成6年度は、高度ポリテクセンターのスタジオを借りて、通信衛星を使用した実験を4回実施

するという目標が立てられ準備に入りました。まず、地方が希望する番組の内容を明確にするため、雇用促進センターの代表を集め意見を聞き、番組内容を固めていきました。それと同時にアビリティガーデンで使用する機器等の基準と仕様書を専門委員会で検討し作成しました。10月から4回実験を実施し、各種のデータを収集、3月末には、放送用のスタジオ機器、通信衛星用送出機器、レスポンスアナライザ等の回答用機器が整備され、本格的な実験に入る準備が整いました。

平成7年度は、整備された機器を使用し、より本番に近い形でのハード面の検証を実施し、平成8年度は、1週間5日連続の番組を4回配信し、時節に応じた特別番組、能力開発セミナー、講習講座、情報提供、職員研修の各番組内容精査点検、双方向機器のテスト、夜間配信時の問題点等チェックを行いました。そして平成9年度からは、錦糸町のアビリティガーデンのスタジオに場所を移し7月より本格配信を始めました。

ほぼ順調に進んだ7月末、ある雇用促進センターから大雨で受信できないと連絡が入りました。そうなんです。電波は雨、雲に弱いのです。特に集中豪雨を降らせるような積乱雲の大きい雨粒に電波が吸収され、地上まで届かなくなってしまう。CS放送は、BS放送より通信衛星の出力がもともと弱めに設定されているので、どうしようもありません。最先端の機器も自然現象にはどうすることもできません。

今年、私は京都で受信する立場になっていますので7～8月はヒヤヒヤでした。実際、雷雲で1時間ほど受信不能に陥りました。今後は、配信日に大雨、夕立がないように京都から祈るばかりです。今後とも無事電波が届くよう事業団本部、アビリティガーデンの関係スタッフの皆さまのご健闘をお祈りいたします。

さて、バトンタッチですが、学生時代お世話になった先輩の高松稔さん。現在、長崎県職業能力開発課で活躍中です。よろしくお祈りいたします。

おしえて

夕毛ちゃん



作：クニ&ヒロ（45）

